

集団操業形態事業報告

猿谷倫、松村健吉、佐藤実、前田勝利

沿岸漁業に従事する小型漁船が限られた行動範囲を基礎として、生産性の向上を企図するためには、まず、科学技術を導入して、伝承の技術に固執する低位な生産性から脱却し、あわせて立地条件に即応した年間操業形態を樹立し、沿岸漁場の生産力に最も適合した漁業の組合せを行つて、経営の多角化を図り、更に操業の集団化によつて、個々の経営体では取り入れることのできない、生産技術を利用するとともに集団の技能によつて、操業範囲を飛躍的に拡張せしめることが緊要なことである。

上記の趣旨のもとで本県が沿岸漁業振興対策の一環として、この事業を取り上げたのであるが、幸い各地域とも漁業技術研究活動等が活発であり、沿岸漁業指導先達船の建造と同時に集団操業の推進と合理的な年間操業形態を確立するため、組織化されている各研究グループを対象に、小集団中心船をもうけ、下記の通りの計画でこの事業を実施することにした。

（一）操業船の編成

（1）操業指導先達船

“ときわ” 26.25 馬力 200HP 茨城県水産試験場

（2）小集団中心船

飛田丸	17.9	馬力	10	HP	大洗町漁業研究会
稲川丸	1.00	馬力	16	馬力	久慈丸小漁業研究会
久徳丸	2.27	馬力	10	馬力	大津漁業研究会
庄亥丸	1.59	馬力	10	馬力	川尻漁業研究会
才5光神丸	2.13	馬力	15	馬力	平瀨漁業研究会
栄丸	1.15	馬力	6	馬力	久慈町漁業研究会
勝盛丸	0.88	馬力	5	馬力	那珂湊漁業研究会
大和丸	0.45	馬力	3	馬力	多賀町漁業研究会
仙舟丸	0.95	馬力	6	馬力	平磯漁業研究会
共栄丸	10.74	馬力	50	馬力	会瀬漁業研究会

□ 実施要領

（1）操業指導先達船“ときわ”の任務並びに業務内容

集団操業形態の中で、常に各集団の動向を把握し、同時に漁場の変化推移等について適切なる判断をくだし、指導先達船としての任に当るものである。

業務内容

(A) この事業の主体となる漁場が、未利用漁場、魚礁群を対象にしているため、“ときわ”は主に漁場探索並びに調査を実施、この結果を各中心船に弘報すると同時に各小集団が、漁場移動を必要とする場合の誘導を行う。

- (B) 漁期前漁場の漁海況を調査し、漁場構造上の諸要因を検討し、操業海区を決定する。
- (C) 漁場探索並びに調査のみで不十分な場合、適当に漁撈操業試験を実施する。
- (D) 出漁中の連絡は定期として、二時間おきに実施。緊急な場合、常時送受信できるものとする。なお各小集団の中継連絡も行う。

(2) 小集団中心船の業務内容集団操業形態の中で、小集団内の先達船としての役割を果たすと同時に「ときわ」との連絡を密接に行い常に集団操業の中心船としての任に当るものである。

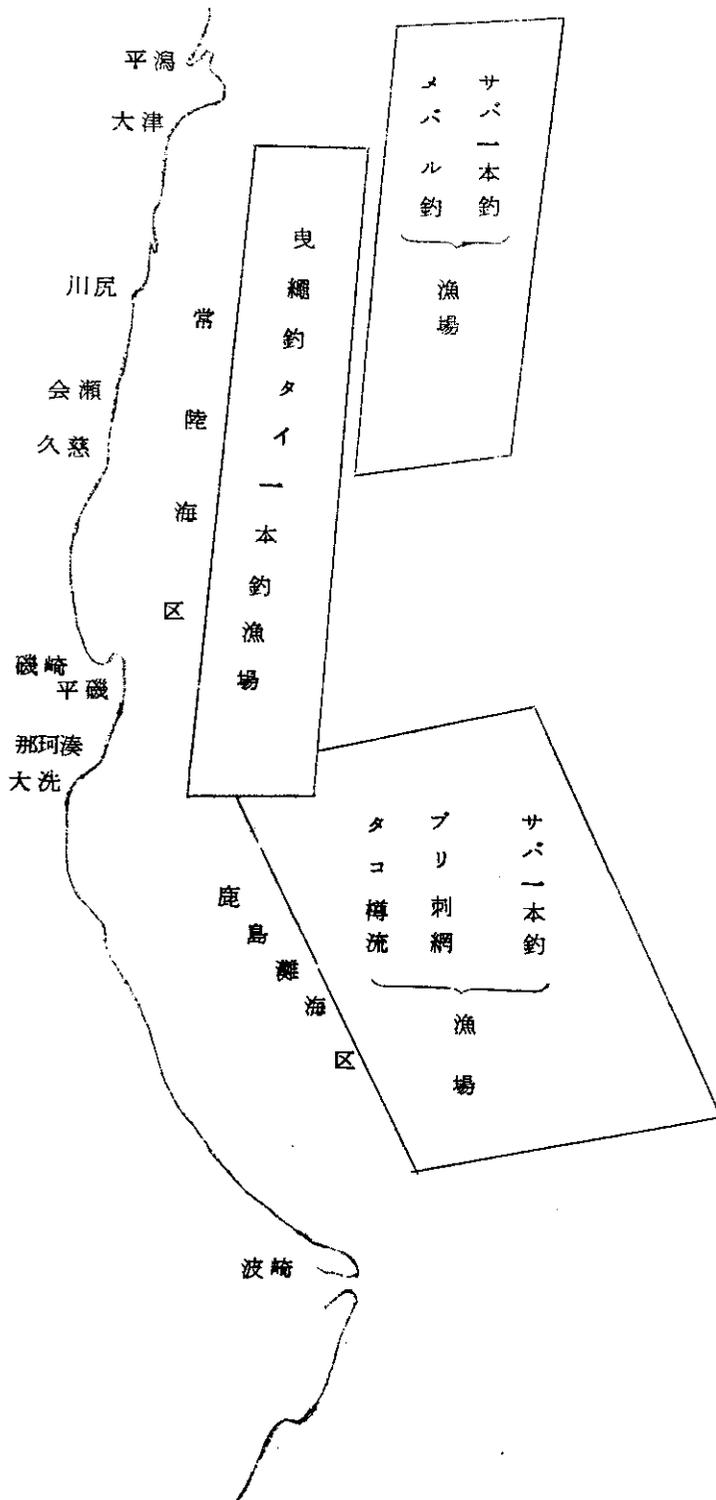
業務内容

- (A) 各小集団内の動向を把握し、漁場調査と同時に漁撈操業を実施。この結果を常に小集団内の各船に連絡し、無駄な操業のないよう各船を指導する。
- (B) 「ときわ」との連絡を密接におこない、自己集団各船の操業状況を通達すると同時に、「ときわ」情報を受信し、その内容を適切に検討し漁場動向を各船に連絡する。
- (C) 他集団との連絡を適宜実施しお互いに漁況等の公報につとめる。

㊦ 年間操業配分計画

業種	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出漁予定 日数
サバー本釣				////	////	////	////	////						40
ブリ刺網						////	////	////	////					20
曳縄釣								////	////	////	////	////		30
タイ本釣	////	////									////	////	////	30
タコ樽流										////	////	////	////	30
メバル本釣	////	////	////	////										20
計														170日

予想漁場図



操業実績

この事業は、昭和33年度から取りあげられたが、同年は操業指導先達船「ときわ」の建造、並びに小集団中心船の装備についやされ、34年度に入り、本格的な事業実施の運びとなった。当初何分始めてのころみであつた関係上、種々問題も多く困難があつたが、次才に改善され7月下旬頃から組織的に操業が行なわれるようになってきた。そこで、これらの操業実績を時期別に記述してみると次の通りである。

6月1日～6月10日 対象漁業 サバー一本釣

「ときわ」の漁場調査と相俟つて、庄亥丸を中心にした川尻、会瀬地区の小集団約20隻は、常陸中部海区、漁場表面水温15.0～16.5℃、水深100m～140m線で、小型サバ群を対象に操業を実施し、1隻1日平均200Kg程の好成績を修めた。

また、飛田丸を中心にした大洗地区小集団約15隻は、鹿島灘中部海域表面水温16.0～17.0℃で大型サバ群を対象に操業が行われ、成果を修めていた。

6月15日～6月18日 対象漁業 旋網

「ときわ」の海洋観測と同時に実施した漁場調査探索により、本県磯浜漁協、波崎漁協旋網各船は鹿島灘南部海区で、「メヂ、マグロ」の好漁獲をあげることが出来た。表面水温17.0～19.0℃1ヶ続平均漁獲4,000Kg漁場大洗崎NNE35哩

6月21日～6月25日 対象漁業 曳縄釣、刺網

常陸海区全般についての総合的な漁場調査を「ときわ」が中心となつて実施した。この結果稲川丸並びに久徳丸集団は、この広報を重点にして、操業した結果ブリ曳縄釣で好成績を修めた。

なお中層流刺網漁法試験が、大津漁業研究会と「ときわ」との共同で実施されたが、「クラゲ」が多く羅網率は極めて低かつた。この期間の漁場久慈沖15哩～大津沖20哩の範囲、表面水温17.0～19.0℃ブリ群 魚体1Kg～3Kg。

7月5日～7月12日 対象漁業 タイ一本釣

大津平潟地区各船は、今年初めて福島県四ツ倉沖に出漁した。出漁期間中、特に7日四ツ倉沖40m線海区表面水温20.0～15.0℃で小鯛の大漁があつた。

1人当たり10Kg収入10,000円程度、なお期間全般的には少々不振であつた。

7月15日～7月18日 対象漁業 ブリ刺網

大洗地区刺網漁場の調査を「ときわ」で実施したが、成果を得るまでにいたらなかつた。

7月21日～7月22日 対象漁業 イワシ旋網

イワシ旋網漁業を対象にした仙台湾周辺の漁期前漁場調査を実施。各地域集団の代表3名が「ときわ」に乗船して行われた。この調査結果では漁況が例年に比較し沿岸部において、寒流水帯の強勢がみとめられた。したがつて漁況も例年より少々遅れている模様である。

8月

沿岸部の漁業は、全般的に不振で、ただイワシを対象にした旋網類と、水深10m～20m線の浅海部に形成される天然魚礁を対象にした、スズキ一本釣が少々好漁獲が見られていた程度で、当事業を実施するまでにいたらず、特に「ときわ」は水試独自の調査である。爆撃補償対策基礎調査並びに原研沖海洋調査を重点的に実施した。

9月13日～9月15日 対象漁業 一本釣

大洗沖水深120m～130m海区の未利用漁場へ大洗町研究グループ中心船、飛田丸他10隻によ

るメバル、ソイを対象にした、新漁場調査を実施した。この結果、時期的には有用な天然漁礁と考えられる礁を数ヶ処発見した。

10月15日～10月16日 対象漁業 タイ一本釣

那珂湊、平磯各集団の漁場である磯崎沖を中心にタイ一本釣の漁場調査を実施、この広報を行なった。

10月24日～10月25日 対象漁業 タイ一本釣

平磯研究グループ中心船仙舟丸集団50隻の小タイ釣漁業の漁場を魚探機により探索を行い、この結果有用な漁群を探知、この広報を行い、各小集団の連絡を密にした結果、相当な成果があつた。

漁場那珂湊地先水深50～65m 表面水温15.5℃

11月6日～11月9日

常陸海区各小集団中心船の要望により、現地協議会を兼ねて漁場調査を実施した。

6日

川尻地区庄亥丸集団フグ延縄漁場位置の確認と集団の指導を行つた。

7日

大津地区久徳丸集団の要望により、「ナダガツオ」の回游状況の調査と沖合150m線サバ漁場の調査を実施。

8日

平潟地区光神丸集団の要望により、「サバ」並びに「タイ」の一本釣漁場について福島県四ツ倉周辺の操業状況調査を実施。

9日

帰港

12月18日～19日、12月21日～22日 対象漁業 刺網

多賀町集団の要望、並びにブリ魚道調査を兼ねて「久慈カガラ磯」周辺の漁場で実施した。

18日～19日

漁場会瀬地先 水深50m～55m

漁場中層流刺網使用反数50反 水温17.7℃ 漁獲なし

21日～22日

漁場東海村地先 水深45m～50m

漁法刺網使用反数50反 水温14.5℃ 漁獲 ブリ他30尾

1月5日 対象漁業 旋網

大洗那珂湊地区旋網船団の出漁前の漁場調査並びに探索を実施した。

1月12日～24日 対象漁業 刺網

「久慈カガラ磯」を対象漁場としている常陸各集団の指導と魚道とを把握するため3回にわたる刺網漁業操業を行つた。

刺網漁場図



- No.1 漁場磯崎沖水深40m~50m
底刺網 50反 タイ, プリ他
- No.2 久慈沖水深49~52m
底刺網 50反 タイ, プリその他
- No.3 会瀬沖水深55~60m
底刺網 50反 平目, その他

2月1日~3日 対象漁業 サバー本釣

大津、平潟、川尻地区のサバー本釣集団の漁期前漁場探索を3日間にわたり実施した。

この結果、特に高層沖水深120m~130m線表面水温14.8℃下層水温13.0℃の海区で有用なサバ群を探知、試験操業の結果、漁獲能率がよく、以来この海区で、各地区集団とも良好な成績を修めていた。

2月9日~10日 対象漁業 サバー本釣

川尻地区サバー本釣漁場の魚群探索並びに指導を実施した。

漁場は銅山沖から高戸沖の水深150m前後水温12.9~13.5℃であつた。

各集団ともこの海区で少々好成績を修めた。この結果は集団操業の現地報告として録音され放送された。

3月2日~4日 対象漁業 沖メバル並びにサバー本釣

大洗地区を対象に沖台未利用漁場の探索並びに小集団中心船と共同操業を実施した。

漁場探索では那珂湊沖正東線附近130m～150m線で未利用漁礁と想定されるもの数群を発見したが操業の対象になるまでにはいたらなかった。このため、共同操業でも中心船飛田丸及び飛清丸、繁丸とも成功するにいたらなかった。しかし未利用漁礁群がこの海区で発見されたことは、今後漁期的な問題と、関連させ沖台進出に希望がもてるようになった。

3月7日～8日 対象漁業 サバー本釣

鉦山沖に於けるサバ漁場のその後の動向を調査、この結果を大津、平潟、川尻、各集団弘報した。